

多くの方々から [B.D.J.] とは何かの質問を受けます。

本来は、財団本部又はBDJのホームページから発信されるべきと存じますが、ここまで放置して置いた責任もあり、今迄の経過をお伝えしたいと思います。

◎ B.D.J.(Ballroom Dance Japan) とは…

「2006年5月に発足したI.P.D.S.C.に日本代表として加盟した組織です。」

◎ 何故、J.B.D.F.本体が加盟申請をしなかったのか…

「わが国はJ.N.C.P.D.(日本プロダンス協議会)を通してW.D.C.に加盟している現状なので、このJ.P.D.S.C.の国内ルールを尊重する為に、直接J.B.D.F.が加盟することによる問題を防ぐ(W.D.C.主催の世界選手権大会に選手や審査員を送ることが出来なくなる可能性がある)ために、アメリカ方式(現在のW.D.C.には現状通り加盟し、同時に組織の一部の部署がI.P.D.S.C.に加盟する方式)を取ることにしたのです。」(J.B.D.F.本部理事会の決議です)

◎ 連盟の常務理事会の決定

「平成20年7月17日に開催された第147回常務理事会に於いて、上記の方法による具体的方法を運営委員長と資格審議長で検討し、具体案を提案すべし、との決定をみました。その提案は、連盟の資格審議委員会のプロダンスインストラクター協会を全国組織化して、J.B.D.F.としてI.P.D.S.C.に加盟する。という案でありました。然し、沢野弁護士のご意見もあり、この方法は妥当ではないとされ、J.B.D.F.の他の加盟団体と同様な組織を作り、アメリカ方式と同様に国際組織の一員として両方に参加することにしました。」

I.P.D.S.C.(International Professional DanceSports Council) とは…

「国際的なアマチュア組織(ID.S.F.)と協調して、オリンピックにダンスを参加させるべく、2006年12月12日、イタリアのローマにて35カ国が参加設立総会が開催され、翌2007年6月9日、スペインのバルセロナに於いて定款・競技規則が策定され、役員が選出されたものです。(現在は41カ国) 当時は、日本からはJ.P.B.D.A.が準会員として出席、J.B.D.F.は参加していませんでした。その後、ピーター・マクスウェル会長から日本の最大の団体であるJ.B.D.F.に働きかけがあり、前記の様に、J.B.D.F.が積極的にオリンピックへの参加に関与するべき、との意見により、財団の加盟団体として[B.D.J.]が設立され、加盟を果たしたものであります。」

◎ オリンピックへの参加に向けて…

「ダンスがオリンピック種目として参加する可能性は大変に大きい、と見られています。然し、乗り越えなければならないハードルがある事も事実です。それは、現在の競技の審査方法をより客観的な採点方法とする事。これは、アイススケートのフィギュアを想像して戴ければご理解戴けるでしょう。

6組が同時に踊って、1～6位を付ける方法では、主観が入り込む要素が大きく、一般の観客（ダンス競技を知らない人も含めて）を説得するには困難であることは誰にも理解出来る事、でありましょう。

もう一つは、アマチュアだけでなく、真に世界一の力を持った選手が参加できること、即ち、プロ・アマが協調して選手を送ることができる状態にすることです。その為、I.O.C.のI.F.を持っているI.D.S.F.はI.P.D.S.C.を必要としてきたのです。

現在、I.D.S.F.は、W.D.S.F.(World DanceSports Federation) = I.O.C. オリンピック委員会に加盟する世界で唯一の団体とすべく、傘下に、[アマ] [プロ] [車いすダンス] [ロックンロール] [民族舞踊] 等を包含した組織作りに取り組んでいるところであります。」

◎ B.D.J.の発足

「先に述べた如く、J.B.D.F.がコントロールできる加盟団体として将来、オリンピックに連盟から選手を派遣できる道筋を付けるべく[B.D.J.]は、2009年の2月にスタート致しました。その規約には、正副会長を含め8名中6名の理事はJ.B.D.F.の会員中から選ばれ、残りの2名は、J.P.B.D.A.とJ.C.F.から1名ずつが選出されることになっています。」

◎ B.D.J.の問題点

「然るに、W.D.C.のトップに近い人は、I.P.D.S.C.に登録すると英国の競技会に出場出来なくなる、と虚言を述べ、B.D.J.に反対の意向を示しました。然し、ブリティッシュ（ブラックプール）、インターナショナル（ロンドン）ユナイテッド・キングダム（ボーンマス）について、主催者は…

[Who have confirmed that I.P.D.S.C. members will be welcome to participate in these events.] （これらのイベントにI.P.D.S.C.のメンバーが参加することを歓迎すると彼らは約束した。）と書面で公表した様に、全くの嘘であります。」

「平成20年6月16日に開催された第33回連盟の理事会議事録にもある通り、2号理事の先生方は、全員 早期にI.P.D.S.C.に加盟することに賛成でしたので、財団本体が一体となって進めて行くことが最も重要と考えます。

もう一度、重ねてお伝え致します。この決定は[財団本部の決議]であり、それに沿って国際関係の円滑な調整をしなければならない[B.D.J.]にとって総局や選手の反対により、国際大会への選手や審査員の派遣、日本国内での国際大会の開催等が不可能になっているのです。(財団本部の問題と認識して下さい)

◎ B.D.J.のポリシー (計画を進めるための方針・政策)

1. オリンピック・ムーブメント への強力なサポート。
2. W.D.C. 及び W.D.S.F. 双方との協調。両者の協調を促す陰の調停役。
3. W.D.S.F.の下、アマチュアと対等な権利・義務。
4. 連盟の選手が、世界中のビッグ・コンペに出場できることを保証する。
5. 世界のダンス界の中で、重要な役割を占められる様な力をつけること。
6. 国内の各組織と協調して、世界に通用する選手の育成に寄与する。

◎ その他

(I.P.D.S.C.がW.D.S.F.の傘下のプロ・ディビジョンになった経緯等。)

◎ 組織図

◎ B.D.J.の規約